

☆沖縄を忘れない——翁長知事が逝去されて一年——

翁長知事の命を懸けた闘い

◆翁長雄志氏は2014年、オスプレイ配備反対、辺野古新基地建設反対を掲げ保守・革新を超え「オール沖縄」を名実ともに掲げて知事となりました。新基地建設阻止に向けた訴訟を起こすなど、反対運動の先頭に立って闘い続け、昨年8月8日、大病を患い、道半ばにしてこの世を去りました。

◆翁長知事は、沖縄の未来を守るという覚悟をもって、辺野古の埋め立て承認撤回を表明、県知事として、持てる権限をすべて行使して徹底的に抗い「すべての矢が尽きたならば自分自身が現地に座り込む決意だった」と言われています。

各種選挙で翁長知事の意味が継承される

◆2018年の9月30日、沖縄県知事選が実施されました。翁長知事の意味を ついで立候補した玉木デニー氏が佐喜真 淳氏を約8万票の大差で破り、当選を果たしました。

◆2019年2月14日、辺野古新基地建設の是非を問う県民投票が実施されました。結果は、新基地建設反対が43万4千票（72%）、賛成が11万5千票（19%）で圧倒的な勝利をおさめました。

◆2019年4月実施の衆議院補選、また7月の参議院選挙においても建設反対の候補者がそろって当選を果たしました。

新基地建設完成、見通し立たず

◆新基地建設は、1999年の閣議決定から20年が経過しました。今日まで「勝つまではあきらめない」と県民総ぐるみの反対運動が継続しています。

◆建設総工費は沖縄県の試算で、2兆6500億円と言われています。ところがマヨネーズ並みの軟弱地盤や活断層の問題などが発覚し、今後私達の膨大な税金を使い、いつ完成するのか、全く見通しが立っていないのが現実です。

沖縄の現実を直視し県民の強い意志や抵抗と連帯しよう！

◆首相は、先の県民投票結果を「真摯に受けとめる」とコメントしたにもかかわらず県民投票の翌日から辺野古沖にダンプカーで土砂を投入し続け、県民の気持ちを無視し「真逆」の行動をしています。

◆私達は、日本の米軍基地の74%が沖縄に集中している現実を直視し、沖縄に関心を持ち、新基地建設を拒む沖縄県民の強い意志や日々の現場での抵抗と連帯していきたいと考えます。

二〇一九年九月八日(日) 護憲平和行進(通算631回目)

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一一一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

☆航空自衛隊浜松基地へ要望書提出

- ◆日時 二〇一九年九月二十五日(水)午前一〇時三〇分
- ◆内容 「エアフェスタ浜松二〇一九の中止を求める」 要望書提出
- ◆提出団体 浜松市憲法を守る会、県西部平和遺族会、社民党浜松総支部